

第82回麻布獣医学会 一般演題10

産業動物臨床基礎実習の実施4年目の評価と問題点

武藤 眞, 入来 常德, 恩田 賢, 新井佐知子, 金子 一幸
伊東 正吾, 押田 敏雄, 川上 静夫, 若尾 義人, 和田 恭則

麻布大学獣医学部

[目的] 平成15年度から始まった獣医学科1年次を対象とする本実習(前期1単位)の目的は, 入院患者の飼養管理を通して臨床に必要な基礎的事項を体験的に習得させることにある。今年も産業動物に関する興味や認識等を把握するために4回目のアンケート調査を行ったので, 実習に対する認識やそれらの評価等について報告する。

[方法] 前期に週1回(木曜日)の講義(14:00~15:00)と実習(15:10~16:50)を計12回行った。一方, 実技は班単位(計20班)で5日間(朝8:00~8:45, 夕16:00~18:00)の実習を行い, 全ての実習が終了した翌週に報告会を行った。

[結果] 今年度の履修者は102名(全体の70%), 単位認定者は100名であった。履修者の出身地は関東(60%)が最も多く, 近畿12%, 中部9%および中国・四国と九州・沖縄はともに7%であった。卒業後の就職希望先は小動物臨床(46%)が多かったが,

進路不明の学生(19%)も多かった。産業動物と公務員希望はともに8%であった。さらに履修者の約80%はこれまで牛, 豚, 馬に接した経験がなかった。講義は例年同様に今年も関心度が高く, 上位は牛(22%), 馬(20%), 豚(15%)となり, 実習の評価も同じ順位であった。一方, 産業動物繋留室の実技では搾乳(41%), 飼料調整(19%), 経口投与と授乳(17%)等に関心が高かった。実際に動物に触れた印象としては, 生き物であるという実感(28%), 動物の大きさ・温かみ(23%), 楽しく新鮮で良い経験(11%), 可愛い・大人しい・繊細である(16%)ことを実感していた。臨床基礎実習全体の評価は91%が良好と判断し, 産業動物臨床の見方について変わったと評価した学生は97%であった。また, 講義や実習および実技に対する意見や要望等は年々少なくなる傾向にあった。